



第一國立銀行
暹氏報告

499

ほノ一



414
A1126
1

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄



東京

紙幣頭得能良々閣下

東京才一国立銀行ノ詳細ナル報告書ヲ拝呈仕
候是レハ須藤氏及ヒ銀行課ノ官員ト共ニ検査
ノ後チ乃チ記載イタシ候者ニ御座候右検査ノ
儀ニ付テハ本月一日月曜日ヨリ同八日月曜日
マテ擔任罷在リ候也

閣下ノ最モ從順ナル下臣

エーアルレンシヤント

大藏省

東京才一国立銀行報告書

第一 別紙才二月二十八日ノ期日ヲ附載シ且ツ
七百八十萬一千百二十六圓二錢四厘ノ身代
及ヒ負債ノ通計身代ノ合計及
負債ノ合計也ヲ揭示セル差
引残高勘定表ハ該銀行三月一日朝時ノ景況
ヲ示セルモノナリ則チ僕検査ニ取り掛リタ
ル日ナリ

第二 此度ハ検査ノ儀ニ付テ最モ先ツ着子スベ
キ丁ハ金貨紙幣銀貨及ヒ銅貨地金銀公債証
書及ヒ銀行紙幣ノ現有高ヲ督察シ精密ニ差

引残高勘定表ト適合セルヤヲ成ル可キ丈ケ
詳細ニ證認スルヲ務メタリ金銀紙幣及ヒ
公債証書ヲ算當検査スルノ義務ハ悉ク官員
ノ任ニシテ其姓名ハ差引残高表ノ各内訳ニ
對シテ詳カニ記載スル所アリ此官員須藤氏
及ビ僕ニ告グルニ諸事皆ナ整修セルヲ以
テス尤モ紙幣ノ片紙ヲ一々計算スルハ極テ
成シ難キヲナルハ論スルヲ待タズシテ知ル
ヘシ故ニ是レハ壹束ツ、検査セリ金貨ハ綿
密ニ之ヲ秤量セリ地金銀ハ悉サニ實見セリ

公債証書ハ一々ニ算當セリ然レモ一ハ銀行
ニ於テ用意ノ未々整ハズシテ順序ノ煩雜セ
ルト一ハ検査ノ未々習練セザルト尤モ是レ
ハ心ズ速カニ熟達スベキヲ信ズニ因テ十
分ニ公債証書ノ差引勘定ヲ得ル能ハザリシ
然レモ次キノ検査ニ於テハ心ス十分ニ整備
スヘキヲ思ヒ哀情竊カニ之ヲ樂メリ若シ
銀行ニ於テ更ニ規律ヲ正フシ検査更ニ習熟
ヲ得ルニ至レハ復々難事ノ生スルヲナリ檢
査ノ實效大ニ見ルベキモアラシ

負債

政府ニマテ合計二五八四三六五圓八一

第三此負債ノ何物タルヤハ差引残高表ニ於テ
細説セルヲ以テ今マ茲ニ無用ノ辨ヲ費マサ
ス

人民ニマテ

紙幣流通高 一三三一、一九五圓

第四差引残高表ノ之ニ相ヒ對セル一レヲ通覽
スルトキハ銀行紙幣ノ多分ハ紙幣及ビ洋銀

拜借金ノ抵当トシテ政府ノ手ニ在ルヲ審
カニスベシ故ニ次キノ算用ハ實正ノ流通高
ヲ顯ハスモノナリ

上ニ示セシ流通高 一三三一、一九五圓

内チ減スルヲ

政府ニ附托セル紙幣 九二三、〇〇〇圓

大阪支店手許紙幣 六一五、〇〇〇圓

合計 九八四五、〇〇〇圓

真ノ流通高 三、四六六、九五

才ニ國立銀行ノ報告書ヲ呈スルノトキ第一國

立銀行ノ流通紙幣ハ昨四月以來漸次ニ減セシ
テ銀行紙幣ノ篇中ニ速ベタリ昨年四月ニ於
テ流通高ハ百三十一萬九千五百四十六圓ノ位
ヲ保テリ今年一月ニ於テハ四十二萬四千零八
十六圓ニ下タレリ然ルニ今マ三十四万六千六
百九十五圓ニ減シタリ之ヲ以テ見ルトキハ日
ヲ追テ収縮ノ勢ニ至ランコトヲ恐ル、ナリ今日
ノ景況ニテハ國立銀行ノ紙幣ヲ發行スルハ未
ダ其時ヲ得サルコトヲ徵スルガ如シサレハ先ツ
其結構ノ方法ニ於テ一改革ヲ為シテ豫メ之ヲ

防クノ策ナカルベカラズ此事タル實ニ至要ノ
一大事件ナレハ深探遠慮ノ上ナラデハ猥リニ
新法ヲ試ムベカラズ又々新々ニ建ツルノ法ハ
再ビ改革ヲ要セザル程正確ナルモノニ非ラザ
ルヘカラス然レモ今マ此ノ事ハ暫ク措テ訪ハ
ズ唯々此ノ主意ノ上ニ一二ノ光點ヲ放ツベシ
ト自ラ信スル所ノ一紙ヲ呈センコトヲ望ムナリ
條例ニ因テ考フルニ紙幣準備トシテ所持スベ
キ金貨ノ割合ハ百ニ付キ六十六、七十ナリトス
然ルトキハ三十四万六千六百九十五圓ニ備フ

ベキ金貨ハ

然ルニ銀行

三、八六一差引ニ〇七四二三一ノ餘分アリ
十分ナル準備ト云フテ可ナリ然レモ其ノ若
十分ハ恐ラクハ政府ノ金ナランカ

定期預金

三三七〇九壹圓二五二

第五此預金ノ多分ハ兼テ推算セシ如ク華族及
ヒ士族ヨリ来レリ多クハ壹ケ年有餘ノ定期
ナリ或ハ三年或ヒハ六年ニ至ルモノアリ一
年ノ預金ハ平均六朱半ノ利ヲ與フ此ノ割合

ハ銀行ニ利益アリ何者銀行ヨリ貸出ストキ
八年々一割ニ朱ノ利ヲ得ベケレバナリ六年
ノ預金ノ利ノ割合ハ九銖ナリ此ノ割合ハ非
常ニ高シト云フヘキカ〇夫ノ小野島田ノ破
産ヨリ銀行ノ信用大ニ衝撞ヲ受ケ預金ノ高
大ニ減スルノ勢アリ

明治七年十月三十一日 五〇〇六六五圓

同 十一月三十日 四六七五七四圓

同 十二月三十一日 四一六六七七圓

明治八年一月三十一日 三二三七四八圓

ベキ金貨ハ

二三一、一四一、五五七

然ルニ銀行ニ所持スル所ノ金貨ハ二五一、八八

三、八六一差引ニ〇七四、二三一、^円一、^厘餘分アリ

十分ナル準備ト云フテ可ナリ然レモ其ノ若

千分ハ恐ラクハ政府ノ金ナランカ

定期預金

三三七、〇九壹圓二五二

第五此預金ノ多分ハ兼テ推算セシ如ク華族及

ヒ士族ヨリ来レリ多クハ壹ケ年有餘ノ定期

ナリ或ハ三年或ヒハ六年ニ至ルモノアリ一

年ノ預金ハ平均六朱半ノ利ヲ與フ此ノ割合

ハ銀行ニ利益アリ何者銀行ヨリ貸出ストキ

八年々一割ニ朱ノ利ヲ得ベケレバナリ六年

ノ預金ノ利ノ割合ハ九銖ナリ此ノ割合ハ非

常ニ高シト云フヘキカ〇夫ノ小野島田ノ破

産ヨリ銀行ノ信用大ニ衝撞ヲ受ケ預金ノ高

大ニ減スルノ勢アリ

明治七年十月三十一日 五〇〇、六六五圓

同 十一月三十日 四六七、五七四圓

同 十二月三十一日 四一六、六七七圓

明治八年一月三十一日 三二二、三七四八圓

三十四万六
百三拾圓

二三一、一四一、五五七

所持スル所ノ金貨ノ二五一、八八

列ニ〇、七四二、三一、一〇〇ノ餘分アリ

備ト云フテ可ナリ然レモ其ノ若

クハ政府ノ金ナランカ

金 三三七〇九壹圓二五二

多分ハ兼テ推算セシ如ク華族及

来レリ多クハ壹ケ年有餘ノ定期

年或ヒハ六年ニ至ルモノアリ一

平均六朱半ノ利ヲ與フ此ノ割合

利益アリ何者銀行ヨリ貸出ストキ

則ニ朱ノ利ヲ得ベケレバナリ六年

割ノ割合ハ九銖ナリ此ノ割合ハ非

云フヘキカ〇夫ノ小野島田ノ破

信ノ信用大ニ衝撞ヲ受ケ預金ノ高

ノ勢アリ

十月三十一日 五〇〇、六六五、圓

十一月三十日 四六七、五七四、圓

十二月三十一日 四一六、六七七、圓

一月三十一日 三二二、三七四、圓

三十四万六千六百九十五圓ノ三、二、六、或十三万
百三拾圓ト成ル拾壹圓五拾弍ノ差違アリ

十月ヨリ一月ニ至ルマデ預高漸次ニ減少シ
 テ其高十七万六千九百十七圓、及ヘリ二月
 二十八日ノ差引残高表ニ於テハ一月三十一
 日ノ預金ノ高ニ超ユルヲ壹万三千三百四十
 三圓ナルヲ示セリ因テ銀行ハ堅固ナリト
 ノ信用將ニ挽回スルノ勢アルヲ知ルナリ

當座預金

四五六、八。二圓二七四

第六此ノ勘定ニ於テハ絶テ利ヲ與フルヲナシ
 故ニ銀行ニハ大ニ利益多キモノナリ此勘定
 ニ於テハ五十九口ノ取引キアリ

其内ニ政府官員及ヒ縣ニ屬スルモノ	三九口
商人ニ屬スルモノ	九口
士族ニ屬スルモノ	五口
華族ニ屬スルモノ	四口
銀行後人ニ屬スルモノ	二口

合計

五九口也

是ニ因テ考フレハ人民ト取引セル勘定ノ全
 數ハ唯々十八ニシテ其内十九箇ノ商人ト
 ノ取引キナルヲ知ルベシ是ハ當座預金ノ
 規則未タ便利ヲ得サルアルガ爲ナリ淺澤氏

僕ニ語ヲ曰ク當時商賈ノ小ナルモノ勘定ヲ
開クヲ願フモノアリ然レモ切手帳ヲ彼輩
ニ托スルハ懸念ナキ能ハズ何者彼等或ヒハ
自己ノ貸方ニ於テ所持セル金高ヨリモ大ナ
ル金高ヲ切手ニ記載シテ世間ニ通用スル
アラシ若シ銀行ニ於テ此切手ヲ仕拂フ
拒ムトキハ人民切手ノ性質及ヒ振出人ト銀
行トノ真ノ時情ヲ知ラズ唯々銀行ヲ誹難シ
テ大ニ其信用ヲ損スルモノアラン僕ハ此事
ニ就テ波沢氏ト一話セン
トヲ望ムナリ且ツ

其難事ヲ防クノ策アルトヲ自ラ信スルナリ
若シ此ノ法ニ從ヒテ進ムトキハ次才ニ富商
ト勘定ヲ開クノ途ヲ得ルニ至ルベシ然ルト
キハ銀行ノ利潤富商ノ便利其レ幾何ノヤ蓋
シ銀行ハ商法ヲ暢通セシムルノ目途ヲ以テ
建設セルモノナリ抑モ此目途ヲ達スルニハ
富且貴ムベキ商賈ト友情ヲ結ハサルベカテ
ス才一國立銀行ノ如キハ此事ニ於テハ大ニ
微々タル所アリ故ニ後チニ至リテ再ヒ陳述
セントヲ望ムト云フ

別段預金

三四六四八圓、八六四

一 茅七此勘定ニ於テ二種ノ内訳アリ即チ

一 大藏省ヨリ銀貨ノ拝借高 三〇〇〇〇圓

一 預カリタル公債証書ノ

利ニテ附托人屬スヘキ高 四六四八圓八六四

合計

三四六四八圓八六四

一 茅八條例ニ附托金ニ備フヘキ準備金ハ二割五

朱ニシテ内一割ハ公債一割五朱ハ通用金ナ
ルヘシトアリ

現有通用金ハ

金貨

二五一八八三圓有餘

銅及銀

八〇八五壹圓餘

紙幣

九九八〇五四圓餘

合計一三三〇七八八

餘

故ニ次キニ示ス所ノ計算ハ其實際ヲ徴スベ
シ

現有通用金

一三三〇七八八 餘

内チ減スル丁

御用準備預金 一一一、二二、二一四 餘

陸軍省預金(八年間)

期限ナルヲ以テ準備

金ヲ要セス

損札引換元 除

紙幣及洋銀拝借(除)

発行紙幣準備金二三一、一四壹圓

合計

一三四三三五五円

差引

一二、五六七円ノ不足アリ

此外次キニ示ス如キ一割五朱ノ通用金準備
須要ナリ

定期預金

三三七〇九一円

當座日付

四五六、八〇二

別段日付、準備ヲ要セズ

仕拂手形

五、一九六

振出シ手形

一三二、八七九

代金取立手形

一〇〇、〇〇〇

合計

一、三一九六八

其一割五朱

一五四、九七四

前葉ニ示セシ高ヲ加フ

一二、五六七

合計一六七、三六一八不足ノ高ナリ

銀行ニ於テ地金銀ヲ以テ二十七万五千四百
八十四円十二七ノ如キ大ナル金高ヲ保テリ
故ニ銀行ニ於テ條例ヲ奉セザルガ為ニ危
難ヲ受クルト云フテハ決シテアルトナシ然
レモ若シ通用金ノ準備金ト云フトキハ貨幣
及ビ紙幣ヲ意味スルモノニシテ地金銀ノ意
味セサルベシ何者當座預ケ主及ビ定期預主
ハ必ず地金銀ノ仕拂ヒヲ受ケザルマシ然レ
モ準備金ノ一部分ヲ地金銀ニ元入レスルヲ
拒ムニ非ス唯々餘リ深入リセザルトテ欲ス

ルナリ何者地金銀程世ニ通用金ニ変リ易キ
モノナシ何時ニ於テモ即チ交換スベキモノ
ハ地金銀ナリ然レモ今マ論スル所ヲ以テシ
テ見ルニ地金銀ニ元入スベキ通用金ノ高過
多ナルナキヲ得シヤ僕前キニ示セシ如ク銀
行ニ於テハ當時附托金ニ備フベキ一ノ通用
金ノ準備ナシ如此ノミナラズ其他ノ準備ニ
於テ一ニ五六七圓ノ欠乏アリ然ルバ若シ當
座及ビ定期預主ヨリ銀行ニ仕拂ヲ請フトキ
ハ地金銀及ビ公債証書ノ賣却マテ御用準備

預金ノ一部ヲ以テ償ハサルヘカラス銀行ノ
製スル所ノ勘定表ニ於テハ地金銀ハ通用金
ノ部分ニ區分セリ故ニ金銀手許有高八百三
十三万七千七百八十八圓ニアラズシテ百三十三
万七千八百八十八及ビ二十七万五千四百八十四
圓地金銀ノ^{合計}高則千六百六十六千二百七十二
圓ト記載セリ此ノ合計ヲ以テ銀行負債ノ準
備金ハ^{備又ハキノ合計ニ比較スル故ニ其準。}勿論充分ニシテ欠乏ナキカ如シ然レ
モ地金銀ハ實ニ通用金ニ非ス假令ヒ銀行ノ
簿冊ニ於テ之ヲ混同セルモ地金銀ヲ以テ通

用金ト為スト能ハサルベシ然ルトキハ斯ク
繁乱ナル勘定ニ付テ利益スル所ナシ却テ政
府ノ檢官ヲ謬マルノミナラス銀行ノ取締役
支配人等自ラ迷乱スルノ憂ヒアラン僕深ク
自ラ信ス前ニ示セシ如ク地金銀ト通用金ヲ
混一スルニ於テハ恐ラクハ真ノ通用金ノ準
備金ニ注意セサルトアラシク今マ僕ノ臆測
ヲ以テハ若干ノ準備金ヲ地金銀ヲ以テ備工
テ可ナルヤヲ決スル能ハス此レハ支配人ノ
自ラ裁決ニ任セザルヘカラズ然レモ全ク地

金銀ヲ以テ備フルハ其不可ナルヲ瞭々たり
唯々御用準備金ニ依頼セズシテ預主ノ求
需ニ應スベキ十分ナルノ通用金ヲ所持セザ
ルベカラス亦々云フ定期預金ノ儀ハ常ニ準
備金ノ制限ヲ要セズ且ハ大約子萬事ニ付テ
幾割何分ノ準備金ナルベシ杯云ヘル規則ヲ
定ムルハ政府ノカラ及バザル所ナルベシ才
一国立銀行ノ全定期預金ハ本年二月二十八
日ニ當テ三十三万七千〇九壹圓ナリ此ノ一
割ハ三三七〇九圓ナリ然レモ此預金ノ多分

ハ明治九年明治十年及ヒ明治十一年マデハ
仕拂期限至ラス且ツ本年六月三十日以後ニ
非サレハ仕拂ヒ期限到ラサルモノ極メテ夏
シ令マ此等ノ預金ニ準備ヲ置クハ銀行ノ為
メニ大ナル損失ヲ生スルヲ知ルベキナリ故
ニ一ノ準備規則ヲ用ヒズ若シ支配人注意シ
テ仕拂期限前十日^前ニ其定期預金ヲ備エ置カ
バ極メテ安全ナルベシ

小野ニマテ貸付金

才一国立銀行ノ重立タル株主ハ三井小野ノ両
組ナリ而シテ小野組近頃破産セリ小野組ニ関
セルモノ五命曩ニ才一国立銀行ノ事務ニ擔任
セリ

小野 善助

小野 助次郎

小野 善右衛門

行岡 庄兵衛

江林嘉平ハ長田ト共ニ支配人ナリ

他ノ取締役ハ三井組ノ代人ナリ

三井八郎右衛門

三井三郎助

三野村利左衛門

齊藤純藏

三井組ニ於テハ長田ヲ以テ江林ト共ニ支配人ノ職ニ居ラシム小野善助三井三野村ハ決シテ銀行ニ出頭スルコトナシ小野助次郎ハ大阪ニ於テ日ニ出頭ス

行岡庄兵衛江林喜平各藤純藏及ヒ長田ハ東京

ニ於テ日ニ出頭ス

明治二年八月一日一百三十四萬貳千四百四拾圓ノ資本金ヲ以テ其商業ヲ始メタリ然レモ真ノ金額ヲ示スモノニアラス七月一日則チ開業前ニ小野三井ノ両組銀行ヨリ貳拾四万貳千圓ノ金高ヲ借りタリ而シテ銀行開業ノ時ニ至ルモ小野ハ此高ヲ返済セズ(三井モ恐ラケハ返済セサリシナラン)故ニ銀行開業ノ時其金額ハ唯々八拾五萬八千四百四拾圓ナリ此金ニハ一ノ抵當ヲ与フルコトナシ且ツ拂済ミ資本金ノ半分

一、越ユルヲ見レハ條例ノ規則ヲ奉セザル既
ニ其開業以前ニ在ルヲ知ルベシ此時ヨリ破産
ニ至ルマデ小野組ハ常ニ銀行借主ニテ皆ナ無
抵當ナリ其借金ノ金高ニ或ハ皆済ノ事アリト
云モ一二日ノ内ナ再ヒ之ヲ借受ルヲ以テ常ト
ナス遂ニ七拾壹万五千円ノ大額ノ無抵當ニテ
銀行ヨリ借り出タセリ而シテ三井組ニ於テ是
ニ抗論スルモノ一人ノアルナシ是ヲ以テ之ヲ
考フルニ小野ハ常ニ銀行ノ金ヲ自由ニ出入シ
タルガ如シ三井ノ取締役是ニ抗セザルハ如何

ナル故ゾ蓋シ三井組モ亦々(慥ナル)抵當ヲ出ス
ト雖モ(數々)銀行ヨリ借出スノ事情アルヲ以テ
嚴シク抗論スル能ハサリシナラン當時小野組
取締役ノ外カ小野組ノ衰類ヲ知ルモノナシ然
レモ小野組ヨリノ取締役ハ心ス能ク其本店ノ
有無ヲ知り無抵當ニテ銀行ノ金ヲ借出シ銀行
ノ衰類ヲ憂ヒス唯々其本店ヲ救ハント欲セル
ナリ以上ニ略説セン無抵當ノ貸金ノ外カ有抵
當ノ貸附金アリ東京横濱及ヒ大阪ニ於テ之ヲ
為ス其破産前三日ニ七拾万圓ノ株券ヲ銀行ニ

送りテ七拾壹万五千圓ノ抵當ト為セリ	
東京ニ於テ小野ニマテ貸附ケ	一七一五〇〇〇
曰ト無抵當ノ貸金ナリシカ其後々七拾	
万圓ノ株券ヲ以テ抵當トセリ	
横濱ニ於テ小野ニマテ貸附ケ	二五〇〇〇
横濱ノ地面家作係セテ五万五千圓	
ノ價アリ五千圓ハ地面ノ價ナリ	
大坂ニ於テ小野ニマテ貸附ケ	三八〇〇〇
新公債證券六万五千圓 百ニ付ケ六十	
ノ割合ニテ	三万九千圓

旧公債六万圓 百ニ付十六ノ割合ニテ抵當	
壹万八千圓	
合計	四万九千八百圓
小野ニマテ貸附ケ	二〇〇〇〇
一斛ニ付六円五十钱ノ米三千斛則チ	
一萬九千五百ノ抵當也	
小野ニマテ貸附	二四〇〇〇
新公債證券五万四千九百圓則百ニ付	
六十ノ割ヲ以テ三万貳千九百四拾圓ノ	
抵當也	

小野マテ貸附	二〇、〇〇〇
秩禄公債證書六千圓百、付八十五、割合ヲ以テスレハ五千百圓ナリ	
新公債證書一万四百圓、百、付六十ノ割合ヲ以スレハ六千貳百四拾圓ナリ	
右抵當ノ合計壹万壹千三百四拾圓	
小野マテ當座預金貸越	五四、〇四〇
無抵當也	
東京ニ於テ小野番頭古川マテ	
其抵當ハ左ノ如シ	四三四八二六七九二

秋田ニ於テ銀銅ノ鑛山七ヶ處	貳拾五万圓
浅草ノ鉄	三萬圓
青森ノ米	三萬四千圓
大坂ノ米	貳万九千圓
此米ハ政府ノ所裁未タ決セサルヲ以テ慥ナラス	
銀行株券千枚	拾万圓
右抵當合計四拾四万三千圓	
全合計	一三三、〇八五、六七九、二
内減スル	

大坂ニ於テ預金	貳千圓
銀行株券割賦金	壹万五千圓
合計	一八、〇〇〇
差引	一三、二八五、七九二
右ハ當時ノ貸附金也	
斯ク貸附金ニ注意ナキトハ(僕ハ不法ナルト云ヒ)二月廿日	
ノ差引残高ヨリ抜萃セシ左ノ表ヲ以テ審カナルベシ	
流通紙幣	三四六、六九五
定期預金	三三七、〇九一
當座預金	四五六、八〇二

別段預金	三四、六四八
振出手形	一三三、八七九
合計	一、三〇、八一五

茲ニ示ス所ニ因テ考フルニ東京ニ於テ人民ヨリ受取りタル通用金ノ金高ヲ唯々壹人ノ借主則チ小野ニ貸附ケルタルヲ知ルヘシ該銀行ニ於テ貸附金ヲ為スベキ為メニ用ユベキ他ノ元金ハ銀行紙幣抵當ニテ政府ヨリ借受ケタル通用金陸軍省別段預金及ヒ其資本金ノ少部分ナリ今マ請負會社ヲ以テ之ニ譬ヘシ請負會社

ハ成ル丈ケ取引ノ郊原ヲ廣大ニセシテ欲シ
 テ一ニノ船舶ニ多量ノ金高ヲ請負フヲ務ズ
 是レ其社ノ安危一ニ船舶ノ上ニ決セシテ憂
 ヒテナリ銀行モ亦々如此ニテ廣ク貸附クル
 ヲ務メ多量ノ金ヲ一口ニ貸附クルヲ戒ムヘ
 シ當時貸附金ノ抵當ナキモノ甚々多シ自ラ抵
 當ヲ得ルヲ以テ規則トシテ而シ之ニ及フ是其
 規則ヲ破ル、非スヤ僕大ニ之ニ抗セサルヲ得
 サルナリ
 次ニ示ス処ハ二月二十八日存在セル所ノ無抵

當貸附金ナリ

福地氏 日：新聞
請負ナリ 一五〇〇

東京為替會社 五七三五

岡田平馬 古川其證
人ナリ 三五〇〇

驛廻寮貸越 一六七九四九七

先收社 二一五六〇

岡田平馬 九七〇〇

以上ニ因テ考フルニ相當ノ金額ヲ越ユルノ外
 カ無抵當貸附金ヲ為スハ該社ノ戒慎スル所ナ
 ルヲ略知スベシ然ルニ無抵當ニ於テ小野ニ

貸附クル金額左ノ如キヲ見ハ驚ヲ喫着スベシ

東京

七一五〇〇〇

大阪

五四〇四〇

合計

七六九〇四〇

故ニ全合計百三十壹万貳千八百拾六圓七拾九
錢ニ種ノ大金ヲ小野ノ囊中ニ注入セシハ疎漏
ノ咎メナシト云フベカラズ且ツ夫レ小野ハ銀
行ノ取締役ナラズヤ今マ取締役ニシテ銀行ノ
金銀ヲ輕用セハ東京ノ商人華族イカテ銀行ヲ
信スベキ外部ヨリ之ヲ見ルモノ皆ナ言フベシ

銀行ノ金ハ小野ノ自由ニ在リト是ニ於テ政府
始メテ取締役其人ヲ得サレバ銀行ハ信用ヲ得
サルコトヲ知ルベシ且ツ小野島田及三谷ノ諸商
破産セシ後千貸附金ト如此ノ多量ナルコトヲ次
ノ半季ニ至リテ株主ニ報告スルコトアラバ裂シ
ク銀行ノ信用ニ撞衝スヘシ
此ノ不幸ナル貸附金ノ結尾ニ至リテ幾何ノ損
失ヲ醸成スルヤ僥豫メ之ヲ決スル能ハス然レ
モ其損失ノ心不起ルヘキコトハ昨半季ノ末ニ之
レカ為メニ備エタル七方圓ノ金アルヲ以テ知

ルベシ貸附金ノ抵當品餘分アルコトヲ見ルトキハ僕心ズシモ稱シテ不十分ナリト云ハス然レ其貸附金ノ百三十壹万貳千八百五拾六圓ハ若干時日ノ間ハ利ヲ得ルコト能ハサルベシ此ノ大金ニ於テ利ノ生セヌトキハ銀行ノ損失少ナシトセサルナリ

島田ニマテノ貸附金

才十三(前章ニ説示シタル不快ナル貸附金ノ外カ該銀行ニ於テ左ノ如キ貸附金ヲ私立為替師

ニ許ルセリ此為替師ハ近頃破産セシモノニテ則チ島田ナルモノナリ

明治七年十二月三十日仕拂約束
二年ノ百三十六号 貸附金 二九、三八五、

右抵當

新旧及ヒ秩祿公債證書一七、二二、五。

紙會社株券

二、四〇〇、

右藤田證人ニテ合計三七、六二、五。

貸越金

一八、九〇〇、

右抵當

公債證書及紙會社株券三、九〇〇

本社株券 一〇、〇〇〇

合計 一三、九〇〇

貸附合計 四八、二八五

若シ抵當品十分ニ貸附金ヲ償フトキハ損失ノ起ルトナシ唯々恐ラクハ常ニ欠價ノ生ゼント

營業入費

第十四(地面家作及ヒ家財) 一六、二三三、五〇

此ノ勘定ハ未タ十分ニ正シカラス唯々其内訳

ハ左ノ如ク區別セラレタリ

東京家作倉庫及ヒ家財 一、二八、五〇〇

横濱地面坪貳拾五圓ニテ貳百六十九坪

代金 六、七二五

家作及ヒ倉庫 八、二七五

石造倉庫 一、七〇〇

合計 一六、七〇〇

大阪

一 地面 二、〇〇〇

倉庫家作及ヒ器具 二、〇〇〇

合計

四〇〇〇

右以上ノ総計

一四九、二〇〇

銀行ニ於テ違約シタル神戸ノ家ニ就テ

三井組ニ拂ヒタル金 一三、〇〇〇

誤テ此勘定ニ記入セシ文具費三三、五〇

以上 一三、〇三三、五〇ヲ加ルトキハ

合計 一六二、二三三、五〇也

一三、〇〇〇及ヒ三三、五〇ノ金ハ勿論損益勘定ニ
記スヘキモノナリ故ニ當時此資産ハ現ニ存ス
ルモノニ非ラス

才ニ國立銀行ニ於テハ地面家作及ヒ家財ハ毎
半季ニ是ヲ記シテ其價ヲ変スルトナシ且ツ請
負及ヒ損消ノ備エナシ凡ソ各同銀行ノ俗トシ
テ家作家財ノ損消ニ備エンカ為ニ年ニ若干金
ヲ貯フルトナリ才一國立銀行ニ於テ亦々此ノ
備エナカルベカラス何トナレハ若シ此ノ家作
ヲ賣ルトキ受テ取ルヘキ金ハ決シテ簿冊中ニ
記入セシ大額ニ同シカラサルベシ銀行ノ凡テ
ノ身代ハ成ルベキ丈ケハ市價ヲ以テ算スヘシ
若シ公債證書滞貸附金地面家作及ヒ家財共ニ

真價ナラサルトキハ利益ノ壹部ヲ是ニ加テ
真價ナラシメサルベカラス

僕ハ才一国立銀行ノ當今ノ建家ニ於テ營業セ
ニテ憂フルナリ其室内各房ノ廣狹ヲ見ルニ
洋法ニ從テ銀行事務ヲ營ムニ適セス僕故ニ此
後新タニ立ツヘキ銀行ハ西洋ノ雛形ニ習ヒテ
建築アラシムヲ望ムナリ然ルトキハ其便利ナ
ルヲ發見スル久シキニ非ラズ